

アジア経営学会第 17 回全国大会
大会実行委員会委員長 小山 修
(札幌大学経営学部)

アジア経営学会第 17 回全国大会統一論題について

統一論題：「新しい危機と成長の時代のアジア企業経営」

2010 年 9 月 11 日（土）・12 日（日）

解題：21 世紀初頭の世界同時不況のもとで、中国など発展途上国の低賃金労働を利用してきた従来の成長モデルは、アメリカ発の金融危機の波及を受けて新しい危機に瀕している。その一面は、1997 年アジア通貨危機の経験を経て、アメリカの世界戦略に対抗する中国をはじめ、日本、韓国など東アジア諸国の各国内での格差拡大が社会の分裂を招くほどに深刻化している点にある。さらにアセアン諸国をはじめ南アジアや中国においても環境問題が深刻化しつつある点も重要である。このような社会的危機と環境的危機のもとで、世界的なさらなる大量生産モデルが進行することによって資源的危機や農産品・水産品など食糧的危機をもたらしつつあると懸念されている。

しかしながら、こうした新しい危機のもとで、新しい成長モデルが模索されている。その一つの面はエコロジー志向の開発モデルであろう。新エネルギー開発を中心として新製品モデルの開発が進行しつつある。また新自由主義政策への反省から各種の社会的・経済的格差の縮小と生活モデルの再構築が模索されている。さらにアジア通貨圏構想を含め、EU、NAFTA と並存する東アジア経済圏構想が模索されている。

このような 21 世紀のアジアの将来を開く構想と産業実践とがいかなる展望をもちうるのかが、今日のアジア企業経営モデルの構築につながることで期待される。21 世紀の前半期は、このように新しい危機と成長の時代となるであろう。今回のアジア経営学会全国大会は、21 世紀初頭の新自由主義からの脱出がいかなる志向で可能となるかが問われる機会となるであろう。その方向は、アメリカ主導のグローバリズムや覇権主義とは異なる、新しいグローバリズムのあり方を問うものとなるかもしれない。それは同時に新しいローカリズムの模索であるかもしれない。会員諸氏の大胆な問題提起を切望するところである。